

〔公事根源十月〕初雪見參 昔初雪のふる日、群臣參内し侍るを初雪見參と申也、桓武天皇延暦十一年十一月よりはじまる、初雪にかぎらず深雪の時は、必諸陣見參をとるといへり、此事絶て久し。

〔助無智秘抄〕初雪日 侍中アライロ、オリモノノサシヌキヲキテ、諸陣ヘムカヒテ見參ヲトルベシ、就中ニ帶刀ノ陣ニムカフ、藏人ヨウジンスベシ、アライロニアラストモ、タビビレイノ裝束ヲソクタイニテモキルベシ。

〔類聚國史百六十五〕延暦十一年十一月乙亥、雨雪、近衛官人已下、賜物有差、丙子、大雪、駕與丁巳上、賜綿有差。

〔政事要略二十五年〕初雪見參事

國史云、桓武天皇延暦十一年十一月乙亥、雨雪、近衛官人以下、賜物有差、初雪見參、是其濫觴、歟、往代之間、雨雪之朝、或王卿侍臣亦、賜物有差、不別冬春、皆有此事、仍或亦稱大雪之時、歟、具國史曆注等。

〔類聚國史帝王三十二〕延暦廿年正月丁酉、曲宴、是日雨雪、上歌曰、宇米能波那、胡飛都都、鄒黎巨敷、留度岐乎、波那可毛、知流屠於毛、飛都留何毛、賜五位已上物、各有差。

〔類聚國史百六十五〕弘仁八年十一月庚戌、大雪、賜左右近衛綿有差。

〔三代實錄陽成四〕元慶五年十一月十八日壬戌、雨雪、十九日癸亥、雪猶未止、勅賜六府少將佐已下、見在陣座及五位已上、在侍從所者、綿各有差、外記内記亦預之、慶新雪。

〔眞信公記〕延長九年承平元年正月九日、白雪滿庭、雪見參取女官、先度只取男官、不取女官故也、二月

廿一日、九日雪見參、祿以太宰綿布、可行事、仰春蔭、

〔日本紀略六〕眞元元年十一月四日丙寅、雪下及尺、有諸陣之祿、申刻諸陣之後、向閑院、有饗膳。